

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会（SNW）

第 21 回シンポジウムのご案内

2050 年脱炭素社会実現に向けて

—原子力発電の新增設・リプレースが必須である—

菅総理が就任にあたって 2050 年にカーボンニュートラル政策の実施を宣言しました。また本年 4 月の気候変動サミットでは 2030 年の温室効果ガス削減量を 46% とすることも表明しました。これらは 2015 年の第 21 回気候変動に関する政府間パネル（COP21）におけるパリ協定の国際合意に沿ったもので、高く評価されています。

電力分野のカーボンニュートラルに向けた政策は、現在議論中の第 6 次エネルギー基本計画において具体化される見通しです。

その中で、原子力発電は確立した脱炭素電源として一定規模の活用が組み込まれ、太陽光や風力などの変動型再生可能エネルギーは、高性能蓄電池により安定電源化のうえ最大限に活用、化石資源は CO₂ 回収・利用・貯留技術の活用、水素、アンモニア発電などによる新技術脱炭素電源が選択肢に挙げられる見通しです。コストや自給率等の目標を達成したうえでこれらを実現するには、今までに経験したことのない技術革新、イノベーションを必要とし、官民を挙げた取り組みが求められます。

実現に際しては、再エネ、火力、原子力の 3 電源の持つ長所を最大限活かすとともにリスクを最小化し、我が国にふさわしいバランスのとれたカーボンニュートラルとすることが重要です。原子力発電の活用の際に既存炉 33 基は 2030 年中頃から順次廃炉となるので、21 世紀中葉以降の原子力電源確保には新增設・リプレースが必須です。

第 6 次エネルギー基本計画の議論において、政府は再稼働の重要性は認めるものの、新增設・リプレースについては現時点では言及していません。こんなことでよいのでしょうか？

このシンポジウムでは、21 世紀中葉以降の電力供給のあるべき姿を俯瞰し、原子力発電について地に足がついた議論を展開します。

シンポジウムではまず政府関係者からエネルギー政策について伺ったあと、産業界の取り組み状況を説明いただくとともに、整備すべき条件についても紹介したいと考えております。皆様に我が国のエネルギー計画の全体像を把握いただくとともに、課題を共有できればと願っております。

シンポジウムはオンライン方式（Webex 使用）で実施します。皆様のご参加をお願い申し上げます。

プログラム

日時：2021年9月15日（水） 13：00～16：30
主催：（一社）日本原子力学会シニアネットワーク連絡会（SNW）
共催：エネルギー問題に発言する会、エネルギー戦略研究会（EEE会議）
後援：（一社）日本原子力産業協会、（一財）日本原子力文化財団
（一社）原子力国民会議
開催方式：オンライン（Webex 使用）

プログラム

司会進行		S N W代表幹事	早野睦彦
開会挨拶	S N W会長	坪谷隆夫	13：00～13：10
基調講演	エネルギー・原子力政策の今後（仮題）		13：10～13：50
	講師	経済産業省 地域経済産業審議官	小澤典明 氏
講演1	2050年カーボンニュートラルの実現に向けた事業者の取り組み（仮題）		14：00～14：40
	講師	電気事業連合会 企画部長	岩田充弘 氏
		同 原子力部長	中熊哲弘 氏
講演2	安全性・経済性を高めた次世代軽水炉の開発設計（仮題）		14：45～15：45
講演2-1	講師	三菱重工業（株）常務執行役員	加藤顕彦 氏
講演2-2	講師	（株）日立製作所執行役常務	久米 正 氏
講演3	次世代軽水炉新增設・リプレースに向けた条件整備と提言		15：50～16：20
	講師	エネルギー問題に発言する会会長	金氏 顯
講演に対する質疑応答			16：20～16：40
閉会			16：40

参加にあたって

シンポジウム参加費：無料
参加申し込み先：原子力学会シニアネットワーク連絡会ホームページより

<http://www.aesj.or.jp/~snw/index.html>

参加人数：200人（申込先着順）